

A-1:研究機関とURA

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 9:00-10:30 web-only

突撃☆隣のURA —研究力強化に向けたURA ネットワーク再考—

多様なURAの集まりのポテンシャルを最大限に引き出し、学際的で社会にインパクトを与える研究力を強化するための「ネットワーク基盤」をどのように構築していけばよいでしょうか。今回は、URA間のネットワークがうまく機能する「理想」とは何かを考える土台を共有し、理想の実現に向けて現実の課題が何であるのかを議論します。

ネットワークといっても個人同士のつながりから、組織規模まで様々ですが、本セッションでは、ある共通目標をもったURA間のネットワークを対象とし、その共通目標のもとでURAが“うまくつながる”基盤を考えます。具体的には、ネットワークの活用を「スケールメリットを活かした業務の生産性向上・高度化」と「異なる専門性の協働による新しい企画の実行」の大きく2つの目標に定義し、実際のネットワークの活用におけるポジティブ要素（うまくいくケース）・ネガティブ要素（解決すべき課題）に着目し、それらの相関も考えます。

セッション前半では、特性の異なる3つのネットワーク—業務専門性が近い組織外のネットワーク（Code for Research Administration）、業務専門性が異なる組織内のネットワーク（集約型：京都大学、分散型：東京大学）—で培った実践的な経験から、ポジティブ/ネガティブ要素への考察を含めた、事例紹介を行います。セッション後半では、参加者の皆さんが関わるURA間のネットワークの特徴や、URA間のネットワークが持つ具体的なポテンシャルについて議論を深めていきます。そして、最後に「隣のURA」との距離を縮めます。

オーガナイザー

新澤 裕子: 東京大学・リサーチ・アドミニストレーター
推進室・東京大学URA



慶應義塾大学大学院医学研究科修了、博士（医学）。医学系出版社、愛媛大学、大阪大学を経て、2017年7月に東京大学リサーチ・アドミニストレーター推進室に着任。2018年東京大学URA認定。研究推進部と連携した研究戦略推進支援業務とともに、“URAのためのURA”として東京大学URAネットワーク発展のためのハブ業務、認定前後にわたる研修の企画・運営に取り組む。

講演者



平井 克之:新潟大学・研究企画室・主任URA

プレアワードと研究IRを担当。PythonとSQLで研究力分析の効率化を目指す。研究力分析コミュニティCode for Research Administrationの立ち上げから運営に関わる。



園部 太郎:京都大学・学術研究支援室・URA

京都大学学術研究支援室(KURA)が設立された2012年より、URAとして研究力強化に向けた様々な研究開発プログラムの企画・運営に従事。現在は、KURA国際グループのサブリーダーの他、プロポストオフィス、国際戦略本部室員を兼任。さらにASEAN拠点/欧州拠点の運営メンバーとして、国際共同研究の創発・運営支援に従事。



鈴木 博之:東京大学・リサーチ・アドミニストレーター
推進室/物性研究所・東京大学プリンシパルURA

1996年東北大学大学院理学研究科修了、博士(理学)取得。同年から物質・材料研究機構で研究職。2004年に内閣府総合科学技術会議(当時)に約1年半出向し第3期基本計画分野別推進戦略策定等に従事。2014年より東京大学物性研究所研究戦略室で研究所運営業務、概算要求、プレ・ポスト等に従事。2020年より本部URA推進室で(物性研究所併任)、URA推進室の運営、URAネットワーク活動等に従事。